

たすけらんで

熊本県男女共同参画通信

Vol.58
2026.2

特集

“思い込み”や“当たり前”を問い直す
絵本とジェンダー



福田病院で行われた両親学級に参加した2組のご夫婦

- 男女共同参画inパレア 講演会
「性教育が失われた時代と、ジェンダーのこれから」
- HiGO ROCKa Summit 2025フォーラム&アワード/プレサミット

情報ライブラリー information

テーマ
社会とわたし



誰も教えてくれなかった
子どものいない女性の生き方

著者:くどう みよこ
主婦の友社

子どものいない女性300人以上に話を聞いてきた著者が、子どものいない人生の受け入れ方とその後的人生を自分らしく生きる方法、夫との関係性や、気持ちの整理がついた女性たちの体験談を段階別に詳しく紹介します。それぞれ立場が違う女性の気持ちがわかる本です。

社会問題のつくり方
困った世界を直すには？

著者:荻上 チキ イラスト:KOPAKU
翔泳社

個人の「困りごと」を「社会問題」として捉え、社会を動かすための方法を「気づく」「つながる」「調べる」「伝える」「動かす」の5つのテーマに沿って解決する道筋が紹介されています。中学生から大人まで絵本感覚で読め、具体的なノウハウが詰まっています。



「学習スペースとして利用できます！」

情報ライブラリーの閲覧席が、学習スペースとしても利用できるようになりました。学校の帰りや休日など、お気軽にご利用ください。ご希望の方は受付にお声かけを。

利用時間 9:00~19:00
休館日 火曜、パレア休館日、年末年始
TEL 096-355-4308

3月8日(日)は「パレアの日」

～国際女性デー関連イベントも開催！～

くまもと県民交流館パレアの、年に一度のおまつりを今年も開催します。パレアのほぼ全館で、小さなお子さんから大人まで学んで、楽しめる催し物がいっぱい！ご家族やお友達を誘って、パレアに遊びに来ませんか。

国際女性デー
「辻愛沙子氏記念講演会」
14:30~15:45(開場14:00)

クリエイティブディレクター・辻愛沙子さんと考える—無意識の偏見に気づき、社会の「当たり前」を塗り替える視点とは？

- 会場 10Fパレアホール
- 定員 300人(先着順)
- 講師 辻愛沙子氏
株式会社arca代表
クリエイティブディレクター
- 対象 一般 料金 無料
- 託児 あり。1歳~未就学児。
2/26(木)までに要事前申込
- 主催 熊本日日新聞社
くまもと県民交流館パレア



詳細・お申し込みはこちら



無料親子映画上映会
10:00~11:30(開場9:20)
「パウ・パトロール
ザ・ムービー」(日本語版)

子どもたちに大人気のパウ・パトロールの劇場版を無料上映します。パウ・パトたちが大活躍のアドベンチャームービー。親子で、お友達とお楽しみください。(小学生以下は保護者同伴)

- 会場 10Fパレアホール
- 定員 300人
- 対象 子どもから大人まで 料金 無料
- 申込 事前申込優先、当日参加もOK



©2021 Paramount Pictures. All rights reserved.

申し込みフォーム



その他の催し物

◎「パレアde防災カフェ」「eスポーツ体験」「おもてなしカフェ」「子ども緑日」「リサイクル雑誌配布」など当日参加OKの催し物もたくさん。お気軽にお立ち寄りください。

◎公式インスタグラムでも最新の情報を発信しています。フォローよろしくお願いします。



◎申し込み・問い合わせ くまもと県民交流館パレア 男女共同参画センター

TEL 096-355-1187 FAX 096-355-4318 E-mail danjyo@k-parea.net HP <https://www.parea.pref.kumamoto.jp/danjo/>



パレアの由来
「パレア」は「つきあい、交際、仲間」を意味するギリシャ語で、心の交流があり、誰もが仲良く利用できる施設をイメージしたネーミングです。

発行/くまもと県民交流館パレア 男女共同参画センター (Vol.58 2026年2月発行・年2回刊)
TEL 096-355-1187 FAX 096-355-4318 E-mail danjyo@k-parea.net
〒860-8554 熊本市中央区手取本町8-9 くまもと県民交流館パレア内
<https://www.parea.pref.kumamoto.jp/danjo/>
熊本県環境生活部 県民生活局 男女参画・協働推進課
TEL 096-333-2287 FAX 096-387-3940 E-mail danjyokyoudou@pref.kumamoto.lg.jp
〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1



素晴らしいロングセラー作品には、普遍的な真実が含まれています。しかし制作された時代を反映し、「お母さんは家の中で子どもの世話をす

今を生きる人々に必要とされる絵本

昔の絵本の中には、やや偏った性別役割分担が描かれたものもあり

東條 近年は海外絵本を中心に、ジェンダー平等を意識した作品が続々と登場していますが、登場人物の心情、社会での立場などを想像し、理解して読めるようになるには未就学児だとまだ少し早いかもかもしれません。子どもたちが日々成長していくなかで、身近な問題として迫ってくるころに、そのような絵本を与えてみるというでしょう。最近では、ジェンダーを超えて「好きなものは好きと言いたい」「それぞれが自分らしく生きよう」といったメッセージが込められた絵本も人気を集めています。そうした絵本を一緒に読めば、子どもたちにも「自分ごと」として伝わると思います。

「女の子はやさしく、男の子はたくましい」といったステレオタイプの描かれ方をしたのも多くあります。子どもに本を手渡すみなさんには、10冊のうち数冊くらいは、ジェンダー表現に偏りのない物語を意識して選んでもらえたらと思います。「ジェンダーってなんだろう」「差別ってなんだろう」といったことがやさしく描かれた絵本もあります。差別する側にもされる側にもならないために、大人も子どもも自然に学んでいけたらいいですね。

ジェンダー平等社会の実現に向けて、絵本はどんな役割を果たすことが期待されますか。

東條 ここ数年、「セクシャルマイノリティを描く絵本」「ジェンダーを切り口に女性をエンパワメントする絵本」「女性を主人公にした昔話シリーズ」など、新しいジェンダー観を表現した意欲的な作品が国内でも出版されています。これらの絵本は、「今を生きる人々に必要とされるもの」だから出版されるのです。絵本には、「分かりやすい」「正解を押しつけない」「物語を通して『自分なら?』と主体的に考えられる」「絵と言葉による癒しの効果」といった絵本ならではの特性があります。ぜひいろいろな絵本を手にとっていたいただければと思います。



“思い込み”や“当たり前”を問い直す

絵本とジェンダー

「男の子だから」「女の子だから」…そんな言葉が、知らず知らずのうちに子どもたちの可能性を狭めてはいませんか。時代とともに社会の価値観が変化するなか、絵本もまた、子どもや大人の「当たり前」を問い直す存在へと進化しています。多様な性や生き方に寄り添う物語が増える今、絵本はジェンダー平等社会にどのような役割を果たせるのかを考えます。

絵本コーディネーターの東條知美さんに、絵本の歴史をひもとくながら、ジェンダー平等社会に向けて絵本が果たす役割について話を聞きました。

日本では約15年前から出版「生きづらさ」をテーマにした絵本も

「わが国における絵本の歴史や背景を簡単に教えてください。」
東條 日本の絵本の歴史は、戦後1950年代くらいに欧米の絵本の翻訳から始まりました。その後60年代から70年代になると、『ぐりとぐら』などで知られる福音館書店や、『しろくまちゃんのほっとけーき』のこくま社などがたくさんの絵本を出版するようになりました。

高度経済成長期にさしかかっただけで、絵本のマーケットも大きかった時代です。核家族化が



絵本コーディネーター 東條 知美さん
銀行、メディアファクトリー(現KADOKAWA)、国立国会図書館、学校図書などを経て、現在は「よりよく生きるための読書」をテーマにした活動を行う。絵本を「発達」「表現」のほか、「ジェンダー」「平和」「共生」「支援」といった社会的視点から読み解くスタイルで、講演、講座、執筆、イベントに携わる。
<https://www.tojtomomi.com>

進み「夫婦と子ども」からなる世帯が急増した70年代は、特に乳幼児〜学童期の子どもの持つ母親の多くは専業主婦でした。公的な長期統計が整備された80年代でも、サラリーマン家庭のうち専業主婦世帯は約6割強を占めていましたが、60年代から70年代にかけてはこの割合がさらに高く、都市部のホワイトカラー世帯に限定すると約8割に達していたという分析もあります。家庭で母親に守られながら子どもたちが何かを作る「体験する」といった絵本が多かったようです。

80年代になると、テレビブームにより子どもの本離れが起きます。一方で、家庭にいる母親たちが自宅を開放して「子ども文庫」を開く運動が全国に広がり、読書の素晴らしさが見直されました。90年代には、『100万回生きたねこ』や『ぼくを探しに』など、大人も考えさせられ

ような絵本が話題になりました。多様な性やジェンダーフリーなどを扱う絵本が登場したのはいつ頃ですか。

東條 日本において多様な性やジェンダーフリーを扱う絵本は、90年代後半から2000年代にかけて、欧米の翻訳本や国内の先駆的な作品が紹介されたのが始まりです。その後、2010年代後半に入ると、SNSによる意識の浸透や、学校教育におけるSDGs(持続可能な開発目標)の推進、さらには性の多様性への理解が進んだことで、大手出版社もジェンダーバイアスや多様な生き方をテーマにした絵本を積極的に出版するようになりました。同じ頃から「生きづらさ」をテーマにした本が多数出版されています。生きづらさを解消する一つの手がかりが、ジェンダーやアンコンシャスバイアスを描く絵



おすすめの絵本

「ジェンダーってなんだろう?」「差別ってなんだろう」などが、やさしく描かれた絵本を東條さんに紹介していただきました。パレオ情報ライブラリーでも貸し出しできます。



女の子の夢を応援するストーリー
「たかくとびたて女の子」
ラケル・ディアス・レゲーラ/作・絵
星野由美/訳 汐文社/発行

夢を持っていた女の子たちが、謎の悪の軍団によって、いつの間にかステレオタイプの「女の子」像に押し込まれてしまいます。内面化した「石」の存在に気付いた女の子たちは、自らの夢を取り戻すことができるのでしょうか。



自分のいいところが探せない
「ぼくはなきました」
くすのきしげのり/作
石井聖岳/絵
東洋館出版社/発行

先生から、自分のいいところを探して作文に書くように言われた「そうたくん」。友だちのいいところはたくさん見つかったのに、自分のいいところはひとつも見つけれません。そんな時、先生がかけた言葉で、「そうたくん」は涙が出てしまうのでした。



ありのままの自分を受け入れること
「なにでもないもん」
少年アヤ/作 阿部海太/絵
岩崎書店/発行

「おんなのこですか? おとこのこですか? 選びなさい」。そう言われた時から、選ぶことが楽しくなくなった主人公。ありのままの自分を受け入れ、自分らしく生きるまでを描きます。ジェンダーフリーや多様な性をテーマにした絵本です。



「社会に『これは問題だ』と声を上げることは、時にはコンフリクト(衝突)が生まれるが、長期的には解決に向けた議論につながる」と話す荻上さん

荻上チキ(おぎうえ・ちき)氏

評論家、TBSラジオ『荻上チキ・Session』メインパーソナリティー。NPO法人「ストップいじめ!ナビ」代表理事。メディア論を中心に、政治経済、社会問題、文化現象まで幅広く論じる。2015年度ギャラクシー賞DJパーソナリティ賞、2016年度同賞大賞受賞。

「社会に『これは問題だ』と声を上げることは、時にはコンフリクト(衝突)が生まれるが、長期的には解決に向けた議論につながる」と話す荻上さん

男女共同参画 ⑩ パレア 講演会開催レポート

「性教育が失われた時代と、ジェンダーのこれから」

評論家の荻上チキさんを講師に迎え、講演会「性教育が失われた時代と、ジェンダーのこれから」を昨年11月30日、開催しました。荻上さんが長年研究してきた性教育やジェンダー*へのバッシングの歴史と影響について講演。データに基づいた分析で歴史的背景と現代の課題が示されました。

*社会的・文化的につくられる性の違い

相手を「主体」として扱うこと

評論家の荻上チキさんは、大学時代から20年近く性教育やジェンダーへのバッシングを研究してきました。荻上さんはまず、1995年の北京世界女性会議で「ジェンダー主流化」が宣言された一方、日本ではバックラッシュと呼ばれる反対運動が始まった経緯を説明。2000年代には政治介入により性教育にブレーキがかけられ、包括的な性教育が行われなかった「失われた時代」が到来しました。その影響は今も続いています。「現在の教科書には『誰もが思春期になると異性に関心を抱く』と書かれています。実際には数パーセントの人はそうではない。自分の体や性の在り方を自分で決める権利があることを学べていません」。荻上さんは自身の被害体験にも触れました。「性暴力を長年『性的いたずら』としか言語化できませんでした。男性の性被害は見過ごされがちですが、適切な性教育がなければ、加害者も被害者も生まれやすい社会になります」と指摘しました。



約140人が参加。海外の政策比較や荻上さんの研究成果も、課題解決の視点を与えました

講演の後半では、フランスでの研修で得た知見を基に具体的な提案が示されました。フランスでは中絶・避妊が原則無料で、虐待が起きる前から家庭を支援する仕組みがあります。「生まれたばかりの赤ちゃんにも同意を取りながらケアを行うなど、人権教育として根付いています」。荻上さんは日本の性教育への具体的な提案として、避妊と中絶の環境改善、包括的性教育の推進などを挙げました。「性教育は関係性を問い直す学び。人を0歳から主体として扱い、同意の大切さを社会全体で共有する必要があります」と締めくくりました。参加者からは「自分にできることから行動したい」などの感想が寄せられました。

cover coordination 今回の表紙に登場したのは

福田病院(両親学級)

2025年の出生数は4000人以上。日本一の出生数を誇る福田病院(熊本市中央区新町)では、両親学級やファミリーサポータークラスが毎月数回開催され、多くのパパ・ママが参加しています。出産前から分娩時、産後の注意点について学べるクラスに参加するパパも増えていて、「テキストを見ながら積極的に参加される姿が目立ちます。立ち会い出産を希望したり、男性育休を取得するパパも多いです」と助産師の濱北さん。この日撮影に協力してくれたご夫婦も、「毎回、欠かさず参加しています。生まれてくる子と会えるのが楽しみ」と笑顔を見せていました。

本物そっくりの赤ちゃんのモデルを抱っこする石井さん・小川さん夫婦



子育ては夫婦2人で支え合って

熊本市内の2つの図書館とパレアの情報ライブラリーに、「多様なジェンダーを扱った絵本」や「ジェンダーの視点で読みたい絵本」を選んでいただきました。子どもの成長や興味に合わせて、読んでみませんか。



「女の子だから、男の子だからをなくす本」

ユン・ウンジュ/作 すんみ/訳 イ・ヘジュン/絵 エトセトラブックス/発行

「女の子は優しくないといけない」「男の子は泣いちゃいけない」「女の子はリーダーになれない」「男の子だから力持ち」などなど、子どもたちを縛る「ことば」はあふれています。「決めつけ」をやめて、自分や自分以外の人それぞれが「自分らしく生きる」ことの大切さに気づくことができる一冊です。

「色とりどりのぼくのつめ」

アリシア・アコスタ、ルイス・アマヴィスカ/作 石井睦美/訳 ガスティノ/絵 光村教育図書/発行

ベンはカラフルな爪が大好きな、マニキュアに夢中の男の子。ママや女の子の友だちとマニキュアを楽しんでいましたが、ある日「女の子みたい」とからかわれて落ち込んでしまいます。好きなものを認め合い、多様性について考える絵本です。



住 熊本市中央区出水2-5-1 電 096-240-1500
時 9:30~17:00 休 火曜、毎月最終金曜、年末年始、館内整理日

未来を担う子どもたちに豊かな感性や創造力を育ててあげたいと、建築家の安藤忠雄氏から熊本県に贈られた図書館。江津湖の自然に囲まれた静かな環境の中、吹き抜けの天井まで届く本棚はまさに「本の森」。およそ1万冊の絵本や大人も楽しめる本が、手に取りやすいようにテーマ別に並べられています。子どもたちは陽だまりに腰かけたり、空きスペースに寝そべったりして、お気に入りの本に夢中になっています。入館は専用フォームで入館予約をした方が優先です。絵本を借りたい時は、お隣の県立図書館へどうぞ。

こども本の森熊本

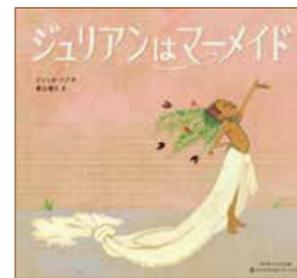


菊池市立図書館

菊池を流れる川をモチーフにした曲線の棚「ブックリバー」が特徴(中央図書館)。館内には「菊池市パートナーシップ宣誓制度」をきっかけに設置したLGBTQコーナーや、読書に困難がある子ども向けの書籍を集めた「りんごの棚」があります。「菊池市デジタルアーカイブ」が、「デジタルアーカイブジャパンアワード2025」を受賞。

「ジュリアンはマーメイド」

ジェシカ・ラブ/作・絵 横山和江/訳 サウザンブックス社/発行



性別による決めつけをすることなく、マーメイドにふん装したジュリアンを自然に受け止め、パレードに連れていくおばあちゃん。多様性の時代に大切なことを教えてくれる、美しい絵も魅力的な一冊です。

「ぼくのママはうんてんし」

おおともやすお/作 福音館書店/発行



バス運転士として働く母親の姿を描きながら、性別にとらわれない職業選択や家族のあり方を伝える物語です。仕事に誇りをもつママと、それを応援する「ぼく」の関係が温かく、子どもにも多様なロールモデルを示してくれます。

住 熊本市中央区手取本町8-9(テトリアくまもとビル9F)
電 096-355-4308 時 9:00~19:00
休 火曜、パレア休館日、年末年始

(中央図書館) 住 菊池市隈府872-1 電 0968-25-1111
時 9:00~19:00(土日祝日は17:00まで)
休 月曜、年末年始、特別整理期間

“熊本あるある”～日常にあふれる「もんだ主義」～

男女共同参画と女性活躍を推進し、「誰もが楽しく自分らしく輝ける熊本」をめざして、「HiGO ROCKa Summit(ヒゴロッカサミット)2025」が昨年12月20日、くまもと県民交流館パレアで開催されました(主催:熊本県、熊本県女性の社会参画加速化会議)。「HiGO ROCKa アワード2025」表彰式に続いて、木村 敬知事を含む5人が「熊本あるある」～日常にあふれる「もんだ主義」～について意見を交わしました。(コーディネーター:MEGさん)

思い込みが挑戦や可能性を阻む
「もったいない」状況を生む

冒頭で木村知事は、「性別に関わりなく、一人一人の考え方や生き方が尊重され、個性や能力が生かされる男女共同参画社会はすべての基本」と挨拶。男女が互いに支え合う多様性に富んだ持続可能な社会の実現のために、あらゆる分野における女性参画の拡大を推進していると述べました。

さらに、「男は強いもんだ」「女は優しいもんだ」「うちの会社はこういもんだ」という固定観念や決めつけ(もんだ主義)が個人の挑戦や可能性をはばみ、「もったいない」状況を生むと指摘。「行政だけでなく、県民のみならず一人一人と事業者の意識改革や具体的な取り組みが求められる」としました。

個々の幸福の最大化により
失敗を恐れず挑戦できる社会へ

パネルディスカッションでは、事前に県立高森高校マンガ学科の生徒たちが描いた6つの4コマ漫画を基に、日常にあふれる「もんだ主義」について意見が交わされました。まず熊本大学名誉教授の鈴木桂樹さんは「熊本では政治・経済・地域活動の各分野で指導的地位にある女性の割合が依然として低く、男女間の賃金格差も存在する。県民の意識調査では、男性が優遇されていると感じる人が多い」とデータを基に指摘。これに対し、台湾出身の松岡光希さんは「台湾では女性の社会進出が活発で、国会議員の女性比率も高い。日本で、“お嫁さんになるのが夢”という価値観に文化的な違いを感じた」と述べました。

HiGO ROCKa アワード 2025 授賞式も行われました



男女共同参画の実現に向けて、地域で活躍している人々の取り組みに対して、木村知事から表彰状が授与されました。
©2010 熊本県くまモン

ついで、「学力には男女差はないというデータがある。思い込みや身近にロールモデルがないことが影響しているのでは」と鈴木さん。介護事業所を経営する岡元奈央さんは近年、女性経営者が増えてきたことを実感しつつも、介護・客室乗務員などの職場における男女比の現状について、「親世代の無意識のバイアスが子どもの職業選択を決めているのではないかと指摘しました。」

最後に、目指すべき社会像について各パネリストが提言。性別に関係なく自分らしくキャリアや生活を選び続けられる社会のためには、「政策による環境整備と意識啓発の両輪が必要」と鈴木さん。木村知事は「目標は『個々の幸福の最大化』。男女問わず、誰もが失敗を恐れず挑戦できる社会を目指したい」と締めくくりました。

市町村訪問～玉名市～

「令和7年度玉名市人権・男女共同参画フォーラム」が開催されました

県内各市町村の男女共同参画の取り組みについて紹介するこのコーナー。今回は、玉名市人権啓発課をご紹介します。

昨年11月8日(土)、岱明防災コミュニティセンターで「令和7年度玉名市人権・男女共同参画フォーラム」が開催されました。90歳のプログラマー・若宮正子さんの講演に約140人が参加。アンケートでは「生き方がすごい」「パワーをもらえた」などの感想が寄せられたそうです。

同市の男女共同参画の現状について前田係長は、「男は仕事、女は家庭」などの固定的性別役割分担意識や無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)が根強く残っていることが課題だとします。「そのような中、男性職員の育児休業取得率が56.3%、女性市議会議員が2人から4人に増えるなど、少しずつ変化も見られます。女性が区の役員として地域活動に参画しやすい環境を整えるための働きかけも行われています。」

男女共同参画週間(6月23日～29日)には、商業施設や駅などでの街頭啓発活動を毎年実施。「人権擁護委員と連携することで、市民の認知度も高まっていると感じます。子育て中の方も安心して市主催の行事に参加できるよう、担当課と連携した無料託児サービスも行い、年々利用者も増えているそうです。今年2月には、女性が自分らしい働き方や生き方を考えるきっかけとなることを目的に「新しい働き方セミナー」を開催。「今後は第5次玉名市男女共同参画計画の策定に向けて、市民意識調査の準備を進めていきたい」と話します。



若宮正子さんが「老いてこそデジタルを。年を重ねるほど、人生はどんどんおもしろくなる。」をテーマに講演



講演会や街頭啓発活動などで配布している冊子



玉名市人権啓発課の皆さん



今、輝いている人 今、挑戦している人“憧れびと”に話を聞こう! 「HiGO ROCKa Summit 2025 プレサミット」開催

口和佳さん(社会福祉法人山清福祉会幼保連携型認定こども園やまなみ)。それぞれのフィールドで活躍する5人が、自身のキャリア選択の経緯や仕事観などについて語りました。

続いて、5つのグループにパネリストたちがかかわるがわる加わるワールドカフェ形式で意見交換が行われました。「直近でいちばん楽しかったことは?」「起業の苦労談は?」などの質問に、パネリストたちも真摯に耳を傾け、自らの経験を話していました。最後はパネリストたちから、「就職して終わりではなく、その後もチャレンジを続けてほしい」「何を大事にするかがあれば、選んだ後の後悔も少ない。たくさん人の話を聞いてもらいたい」などのエールが送られました。

自分自身の未来図について考える貴重な時間となりました



熊本で働く魅力や、周囲の人との繋がりの大切さもメッセージとして伝えたパネリストのみなさん

12月20日(土)、「HiGO ROCKa Summit 2025 フォーラム&アワード」に先駆けて、若年層を対象とした「プレサミット」がパレアで開催され(主催/熊本県、熊本県女性の社会参画加速化会議)、県内の高校生や大学生18人が参加しました。(ファシリテーター/水野直樹さん)

パネリストとして登壇したのは、大塚あゆさん(株式会社鶴屋百貨店人事部)、長住蓉子さん(東京エレクトロン九州株式会社先端技術開発部)、永木海さん(株式会社Evolv代表取締役)、深川杏樹さん(株式会社熊本日日新聞社事務局)、山